川崎市立小学校体育研究会

中原支部研究だより

２０２３年　第１号

第3回中原支部授業研究会

１１月１日（水）に東住吉小学校（鉄棒物語発祥の地）にて第１回中原支部授業研究会が行われました。お忙しい中、多くの方々にご参加していただきました。研究協議では、多くの方から意見や感想をいただき、活発な意見交流ができました。協議の中で話題になったことや意見、感想をまとめてみました。

研究協議

≪５年生　器械運動「鉄棒運動」　白田　利江　先生≫

○「できばえ」と「技のポイント」の違いは？
→「できばえ」は〝できた姿〟…オクリンクで手本の動画を送った。
「技のポイント」は〝できばえを高めるためのポイント〟

○子ども同士のアドバイスについて
得意な子は細かく教えられていた。一方で「気合いだよ」「いいよ」等の声かけもあった。
ポイントを確認する時間や、アドバイスを確認する時間があったのか。
→1 時間目と 4 時間目に技の説明をした。ポイントが浸透していないところもあった。言葉かけをしていきたい。

○教師の関わりについて、どのような言葉かけをしてめあてを達成できるようにしたのか。
→動画でわかる子、カードでわかる子がいる。自分で選ぶことができるように言葉をかけた。

○見合いをよく行っていた。
ある子は、補助具を使い、その後 GIGA 端末で手本を見て、また補助具を使ってのサイクルを回していた。その後、後方片膝掛け回転に取り組んでいたが、取り組んでいる子も見ている子もポイントがわかっていない様子だった。わかっていればよかった。
→（支部より）
・前半は基本技、後半は発展技を行った。
・関わりでは、自分のプランを立てて取り組んでいたため、ばらつきがあった。
・同じ技同士のペアリングは難しかった。

○スモールステップを踏ませてあげたい。
坂道の場をもっと使ったり、チューブをだんだん緩めてあげたりする。だんだん緩めることで少しずつフラットになっていく。お腹をくっつけることが大切だと気付くことにもなる。

○補助具について
単元前半でどのような補助具を使っていたのか。
→3 時間目から準備をした。チューブがいいなとなっていった。

○どの子も夢中になっていた。仲間のために教え合う姿が素晴らしかった。
運動をすることが、得意な子→苦手な子のアドバイスが多かったが、運動をすることが、苦手な子→得意な子のアドバイスも見られるとよい。

○プランニングについて
・プランを修正している姿が見られた。学びの AAR サイクルだと思う。
・最初に布団ほしをしていた子が、次に前方片膝掛け回転に取り組んでいた。一気に難しさが増していた。プランニングは、子どもの思いを大切にしたのか？それとも順序性や難易度は示したのか？
→前向きに取り組む姿勢を認めた。やってたい子どもの思いを大切にした。次に修正するときに言葉をかけたい。

○かかえ込み回りに取り組む子が少なかった。取り組んでいきたい。
→手を離すことへの恐怖心を感じる子が多くいた。安心できる場をつくりたい。

○「この技ならできそう」と考えながら取り組んでいた。試行錯誤の姿が見られた。
できる子が、できない子の動きをやって見せて「こうなっているよ」と教えていた。結果、できるようになった。

〇３つの技のプランニングで、単発で練習をしていた。組み合わせたくなるような言葉かけがあればよかった。
　〝する・見る・知る・支える〟の関わりがあった。
　「どうしたらいいんだろう」と考える姿が素敵だった。
〇子どもたちのアドバイス量が素晴らしかった。
　一方で、技のポイントを理解しているのかが疑問だった。

指導講評　講師：　原田　嘉昭　先生
（川崎市立小学校体育研究会　助言者　川崎市立東小田小学校総括教諭）

〇全体を通して
　・クラスの雰囲気が良い。
　・ワイワイ取り組む姿、片付けも楽しそう。
　・なまけている人がいない。
　→鉄棒が楽しくなっているということだと思う。
①プランニングについて
　〇個別最適な学びが求められている。自分のペースで取り組む。今日的な学びだった。
　　一人一人が技に向き合っていた。
　〇学習カード
　　・技が３つ、２つの子もいた。時間、めあて、心情面も書かれていた。
　　自分のめあてに合った場も書かれるとよい。
　〇一つの技を黙々とする子、変える子、思いつきで取り組む子がいるが、先生が把握できるとよい。
　　ただ飽きて変えることだけは避けたい。言葉かけをしたい。タイマーや 10 分で音が鳴る工夫があるとよい。時間を教えてあげるとよい
　〇かかえ込み回りは絶対だと思っている。
　　中学年でたっぷりと取り組む。頭の重さで振る体験。ぜひ取り組んでほしい。
②言葉かけについて
　〇見る、撮影して見比べる姿があった。
　　できなかったら１つ前の技をやってみるというのがよかった。
　〇見合うときに、自分たちの感覚で話している。
　　ポイントはカードを見ていたので、わかっていなかったのではないと思う。
　　なぜできないのか、子どもにはわからないのだと思う。そのために先生のアドバイスが必要。
　　→「ここがポイントだね」と言葉かけ。全体共有をする。
　　→自分は、「褒めてあげるといいよ」と伝えている。
　　→できていることを確認し、残っているものができていないところ。
　〇逆上がりの脚を押してあげいる子がいた。
　　「脚をピンとだよ」「脚をふわっとだよ」と伝えていた。
　　→脚を向こう側にということだが、伝わっていなかった。
　　※そこで教師の出番。「脚が向こうということだね。腕をひきつけてみる？」と言葉をかける。そうすると
　　次からは「先生がこの間言ってたよ」と広がり、子ども同士の関わりが活性化していく。
　　大きな声で教師が言葉をかけることで他の子にも広がっていく。
③「できばえ」と「ポイント」
　〇振り返りで「俺もうやることなくなった」という子がいた。先生は「もう少し違う技に挑戦してみよう」
　　と言葉をかけていた。ここができばえを高めるチャンスだった。
　　→「どれくらいできるようになったのかな？」と問う。できばえを高める姿に繋げる。
④鉄棒で大事にしていること
　〇できたら嬉しい。鉄棒の上で終われたら嬉しい。この嬉しさを味わわせたい。
　　技能だけではない。３つの資質能力をバランスよく伸ばせば、技能も伸びる。
　　プランニングし、思考し、できるに繋げる。
〇少し難しいのができると楽しい。
　「このくらいできるといいね！」…小さいステップで示してあげる。「ここまでできたね！次はここだね！」
〇楽しくなってきたらチャンス。鉄棒ブームを起こす。休み時間に。
　〝もう少しでできそう〟〝小さなできた〟を大切に。先生が率先して休み時間に鉄棒に誘いたい。
〇見合ってお互い点数をつけることをしたこともある。組み合わせる仕掛けの工夫として考えられる。

担当：下河原小学校　下澤 優介　　文責：下沼部小学校　田中 雄太